

今年の冬、聖岳へ登った時に小聖岳付近の稜線から見えた雄大な山。上河内岳。夏に計画して早速登った。

### ～1日目～

前日夜まで台風が静岡県に上陸し、大雨。前日の雨の影響で5時芝沢ゲート着で駐車場には余裕があった。ただし、5時時点では雨。7時まで天候の回復を待って仮眠をとる。出発を遅らせたのには秘策があり、今回は自転車を積んできた。冬に林道歩きが長くとても疲れた記憶があったためだ。天候の回復を確認し、自転車で芝沢ゲートを越える。どこまで行けるか自信はなかったが、結局易老渡手前まで自転車で登れた。登りでも時間短縮効果は大きい。(冬90分→自転車45分)ただし、この時点で汗だく。太ももパンパン。

直前まで大雨だったはずだが、西沢渡の橋は水没することなく渡れた。(野猿は体力使うのでできればやりたくない)

その後急登を淡々とこなす。だんだんと霧が出てきた。苔平上あたりで太ももがつりかける。なれない自転車のせいだ。自転車のトレーニングをしなければ!

薊畑では霧に加えて強風。今回の稜線はずっとこんな感じだった。

### ～2日目～

朝、3時に起き準備するが、4時時点で濃霧。トイレまでも道がわからないくらいのため、出発を遅らせる。4時30分やや霧が薄くなったため、上河内岳へ向け出発。多くの方が聖岳を目指すと思うが今回は上河内岳優先で。霧でまだ暗いため、慎重に登る。途中朝焼けが一時見え期待したが、遠くが見えたのはこの瞬間だけであった。

南岳辺りで樹林帯を抜け稜線に出ると、霧で強風。メガネが曇る。南岳直前の稜線で東側のハイ松の中の道を見落とし、西側の崖を降りかけた。怪しいと思い引き返したが危険だった。GPSでも確認したが、登山道からの距離が近く、方向もあっていると、見極めが難しいことがわかった。

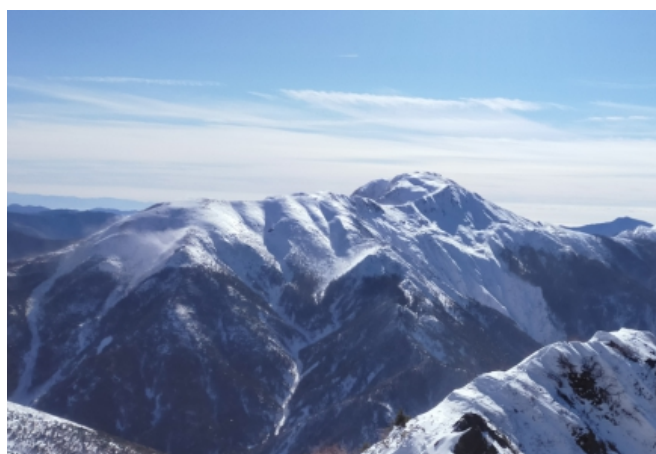
南岳前後は花畑状態。自分が名前がわかる花も(ゴゼンタチバナ、トリカブト、ウサギギク、マツムシソウ、リンドウ、ウスユキソウ)わからない花も多種見られた。霧で遠くが見えないため、近場に集中できてよかったかも。

上河内岳は登頂しただけ。強風で展望はなく、証拠写真を撮りそそくさと下山。

聖平小屋についたが天候は変わらず霧と強風。この後どうするか検討する。天気予報や小屋の方の天候の見解を聞き、回復しないと判断し、目的は達成したため、下山することとする。2泊分で支払ったテン泊代は1泊分返金してくれた。助かった。これで前夜ビールが買えていたら最高の小屋だったのに。(ビールは売り切れでした)

判断したらすぐにテントをたたんで下山。最後、易老渡から芝沢ゲートは自転車で快適だった。これなら長い林道歩きも全く苦にならない。

写真1 冬に見た上河内岳の雄姿 かつこいい!



### 【コースタイム】

#### ～1日目～

07:00 芝沢ゲート

07:45 易老渡

08:10 聖光小屋

08:50 西沢渡

11:25 苔平

12:35 薊畑

13:00 聖平小屋

#### ～2日目～

04:30 聖平小屋

06:40 上河内岳

08:20-09:20 聖平小屋

09:30 薊畑

11:30 西沢渡

12:25 易老渡

12:55 芝沢ゲート

写真2 自転車デポ 待っててね～



写真3 西沢渡の仮橋 渡れてよかった



写真5 期待させる朝焼け 一瞬の出来事



写真7 上河内岳山頂にて 一応証拠写真



写真4 聖平小屋へ続く木道 ガスで向こうが見えない



写真6 花畑 名前がわかるものもありました



～おまけ～

(上)河内 (かみ)こうち について調べてみた。

【上河内岳】

他にも南アルプスに広河内岳、奥河内岳、白河内岳、黒河内岳、小河内岳あり。

この場合「河内」は狭い溪谷という意味

【上高地】

穂高岳に神が降臨した神降地という意味

【河内国】(地元)

川の流域の開けた平地という意味

同じ様でそれぞれ違うもんだな～